

令和5年度第1回名取市地域学校協働活動運営委員会 令和5年11月13日（月）

令和5年度 第1回名取市地域学校協働活動運営委員会概要記録

○日時	令和5年11月13日（月）午後1時30分より
○場所	仙台法務局名取出張所2階 第4会議室
○出席者（6名）	紙谷ゆたか委員、久米智美委員、橋浦ふさ江委員 佐々木健太郎委員、伊藤宗男委員、小沢静子委員
○欠席者（3名）	矢澤ユキ江委員、入間川徹委員、洞口のり子委員
○事務局出席者	教育委員会 教育部長 齋藤 正光 生涯学習課 課 長 佐藤 徹也 " 課長補佐 佐藤 浩 " 生涯学習・青少年係長 菊地 栄一 " " 社会教育主事 小池 郁江
○傍聴人	なし

会 議 概 要

《委嘱状交付式》 進行：佐藤課長補佐、介添：小池社教主事
名前を読み上げ、齋藤教育部長より1名ずつ交付。

1 開 会 進行：佐藤課長補佐

2 あいさつ 齋藤教育部長

委員のみなさまにはお忙しい中、お集まりいただき感謝する。地域学校協働活動については、今年5年目を迎え、15学校区、全ての協働本部が順調に活動を進めている。

各協働本部の取組については、本日の協議事項となっているが、いずれの報告においても、少ない運営費の中で、工夫を凝らし地域住民の力を十分に発揮しながら各地域、特徴的な取り組みを行っている。この運営委員会の目的は検証と評価である。本日のみなさんの協議の内容は各協働本部の励みになる。活発な協議・発言を頂戴したい。先週から寒さ増してきた。現在市内の各公民館まつりが繰り広げられている。学校でも学習発表会や様々なイベントが各地区で行われている。一方、県内では新型コロナウイルスに変わり、インフルエンザがだいぶ流行している。委員の皆様におかれましても健康と活躍を祈念している。本日は、よろしくお願いしたい。

3 自己紹介

運営委員、教育委員会事務局の自己紹介。

会議成立の確認

資料①名取市地域学校協働活動運営委員会設置要綱を説明し、第6条第2項により、委員過半数の出席を確認し、会議成立を宣言した。

会議公開の確認

名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨告げる。傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。会議録を作成の後、皆様にご確認いただく。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

委員長及び副委員長の互選

教育部長が仮議長となる。事務局案との意見があり、次のとおり全員賛成で委員長及び副委員長が互選された。

委員長：伊藤 宗男 委員

副委員長：紙谷 ゆたか 委員

4 報告事項

名取市地域学校協働活動運営委員会設置要綱第6条第1項により、伊藤委員長が議長となり進行する。

伊藤委員長

最初に令和5年度の事業について、事務局よりお願いしたい。

事務局（小池社会教育主事）

資料②「令和5年度地域学校協働活動事業実施要項」をもとに、令和5年度の事業の変更点（委託契約日、委託料の内訳）について説明した。また資料③「各協働本部の取り組み ア 計画と活動について イ 市長と各協働本部との懇談会について」をもとに各協働本部の取組と成果、課題についても報告した。

伊藤委員長

②と③について、一言ずつ質問やご意見をお願いしたい。

橋浦委員

今の資料説明を聞いても、実践例を見ても、どの本部も協働という名前の通りの活動が進んでいてすごい。そして、独特の活動の内容もだいたい入ってきている。愛島小など、開校150周年記念のための事業やそれに向けた取組など、これまでなかった取組も進んでいて、本当に協働活動が地道に活動の幅を広げている。公民館とのつながりにおいては、閑上では、公民館まつりに子ども達がたくさん参加している。閑上は小中学校なので、小学生も中学生もその兄弟も来ていて、様々な年齢の子どもが参加していた。閑上はどんどん子どもが増え、街

の中に子どもが増えている。それを支える大人の協力関係ができています。公民館まつりだけでもそう感じた。

久米委員

コーディネーターが苦勞しているというのは、聞いて知っていた。私も那智が丘小の抹茶教室やみどり台中のココロふれあい講座などに参加している。いずれも協働本部ができる前から行っている取り組みがもとになって協働活動として行われている。これまで、子ども達にいい講座だと思って企画しても、お金が足りず実践できないこともあった。協働本部ができて予算的な面が助かったと聞いている。それはとてもいいと思う。実際に子ども達と関わるのは楽しいし、続けられる環境がなくなるのではと心配していたが、本部ができて予算的によくなった。

紙谷委員

いろんな地域の取組を見ているが、名取市くらい公民館が中心になって取り組んでいるところはない。名取市は学校数が多いが、その中で、多くの予算を取って活動しているところや、昨年度市長と話し合っ、て、予算の3万円に融通がきくようになったのは成果である。5年目の取組だが、これからさらに楽しみな活動だと感じる。

佐々木委員

コロナが開けてますます活動が活発になってきている。おそらく地域ごとに課題が異なる印象がある。活動が活発化していく段階でどういう方向性を目指したいのか、地域住民の特性や地域性を踏まえどう活性化していくか、それぞれの地域で言語化することによって目を向け考えてもいい時期なのでは。それを教育委員会で伴走しうまうま引き出していくと、さらにまとまりがある活動になるのではないかな。

高橋委員

契約時期、飲み物など、本部のみなさんたちの声を聞いて改善しているところはとてもよい。役員の代替わりが始まっているということは、期間が積み重ねられている活動になってきたということ。教育委員会でもフォローが必要だと話していたが、本部のみなさんが十分に力を発揮できるようフォローしてもらえればと思う。

伊藤委員長

二中学区の仕事博覧会がすごかった。参加する企業側の力も上がってきている。仕事のやりがいなど目を輝かせて話してくれている。企業側の努力がうれしかった。

伊藤委員長

他になければ、資料④「教職員向けのアンケート結果について」事務局より願います。

事務局（小池社会教育主事）

資料④「教職員向けのアンケート結果について」について報告した。

橋浦委員

先生方の率直な気持ちがアンケートに現れている。様々な会議に出席するが、どの程度協働活動として学校に入っていけばいいのか、どんな感じで地域と活動していけばいいのかと思う。その地区ごとに違いがあり、それぞれの学校ごとに違う取組がある。先生方は転勤があり、新しい学校に移動になったら、また一から始めなくてはならない。地域のある程度の特徴をつかむまで大変。その中で協働活動につながっていくというのはさらに大変なこと。普段の授業の学習指導も複雑である。教頭先生や主幹教諭など、クラスを持っていない先生は協働活動の連絡調整をやるかもしれない。しかし、学級担任をしながら取り組むのは大変なのだと感じた。その中で先生方は前向きな感じが感じられる。

久米委員

先生方の認識の低さに驚いた。労働時間外という感覚でとらえられているのかと感じ。実際活動してく上で校長先生、教頭先生と事前に打ち合わせをしていくことになると思う。以前は活動をした後に生徒にアンケートを取り先生方に集計してもらっていた。今はタブレット等があり先生方の手間は減っていると思う。そういった工夫が進んでいけばよい。また、どうしても校長先生が代わると、少しの期間地域となじみが薄れる時期ができてしまう。そういった際は、地域が対応していると感じる。

紙谷委員

地域学校協働本部の代替わりという話があったが、日本全国教員も代替わりの時期になっている。若手の教員が多くなり、まずは学級経営、学習指導で手いっぱい。管理職の立場としては地域との窓口になることを考えるとコーディネートの力量がある、それだけの人を当てなくてはならない。そうなると教頭や主幹が担当になることが多くなる。また、学年によっては地域に目を向け関わる単元がない学年もある。そういった学年を担当している教員によっては協働の意識が育っていない場合もあるかもしれない。

閑上には閑上学がある。その学習が発展して公民館まつりに参加する児童が増えている。ようやく道筋が立ってきた。これから2、3年かけて出来上がっていくと思う。

現在教員の働き方改革が進められている。校長として時間外勤務は命令しづらいところがあるし、教員もそういう意識になっている。地域学校協働活動のメリットを示していかないと若い教員には受け入れられないところがあると感じる。ただ、取り組んでいきたいという意識はあるので、教員はまじめだと思う。

伊藤委員長

全く取り組まないと否定しているわけではないように思うが、いかがか。

伊藤委員長

協働活動を嫌がる教員は、すごく嫌がるが、そういう教員は名取の中では見たことがない。

佐々木委員

否定的な意見に目が向きがちだが、基本的には前向きな結果で多くの人が理解して取り組んでいると感じる。以前から地域学校協働活動の資料を見ているが、現在は学校支援活動が中心になっているように思う。先生方に地域学校協働活動がどのように認識されているのか、自分が勤めている学校の取組にはどんなものがあるのか、先生方には周知されているのか。

事務局（小池社会教育主事）

活動の周知は、それぞれの学校にその学校の分を配布している。

佐々木委員

すでに先生方が行っていることはたくさんあるので、その活動が地域学校協働活動にあたっていることを先生方が知ると、十分ポジティブな結果につながってくるのではないかな。

紙谷委員

学校側でも整理が必要。ミシンボランティアは本当に必要。しかし、単発である。閑上学だと総合的な学習の時間に組み込まれている。地域の人が入るが、その人の都合で毎年中身が変えられると困る。決まった学年で決まった協働活動をするということが閑上はようやく積みあがってきている。それがカリキュラムとしてきちんと整備されるようになるとだいぶ違う。今、右往左往しながらカリキュラム作りを行い、その中で学習活動、協働活動をしている。

久米委員

那智が丘小では抹茶と煎茶教室を毎年やっていたが、協働本部が入ったことで、費用が付きやりやすくなっている。どこまでが地域団体単体の活動で、どこからが協働本部の活動なのかその線引きをコーディネーターの介入があったり指導があったりすると、さらに多くの人や団体がかわっていけるようになる。同じ地区でありながら育成会としては協働本部に入らない活動もやりつつ、小学校に関わる活動であれば一緒に行うという形で分けながらやっている。学校と一緒にやると学校の負担になることもある。

小沢委員長

すごく活動が充実してきている。本部のみなさんの活動が軌道に乗っていると感じる。一方で協働活動をすることで、学校の先生方にとって仕事が増えることがあるのだと知った。先生方も活動に取り組もうという意識が多い。これからは先生方の意識や取組を軌道に乗せていくための期間に入ってきているのではないかなと思う。

伊藤委員長

アンケート結果はこれでよいのではないかな。P14のグラフでは黄色の「協働活動に取り組んでいきたい。」という意識が高くなっていて安心した。生涯学習は、自分探しである。子どもも

先生もボランティアも自分探しをしている。多くの人と接することは大切である。先生方も取り組んでほしい。

先生方へ動画や実際に出向いて説明とあるが、その流れを教えてほしい。

事務局（小池社会教育主事）

なぜ、地域学校協働活動が進められているのか、学校支援とはどう違うのか、子どもや地域への効果について説明する。また、協働本部やコーディネーターと本音で話せる関係作りをしてほしいという内容を15分程度で行う予定である。

伊藤委員長

何か、質問や意見はあるか。

最初のスタートは学校の支援が多い。地域学校協働活動なので、時が過ぎれば地域と歩み寄っていくようになればいい。

佐々木委員

学校現場の状況を考えると、まずは学校にメリットが感じられることから展開し、先生方に悪い活動ではないと認識してもらい受け入れてもらうことが必要。従来している学校支援活動は地域学校協働活動の一環であり、学校で先生方が困っているところを助けてもらえる活動だと認識してもらい、そして活動が広まっていくという入りでいいと思う。新しいことをするのではなく、地域学校協働活動で地域の人の力を借りられると分かってもらいところから始めるのがよいのではないか。

紙谷委員

角田に努めていた際には餅つきなどいろいろな体験をさせて頂いた。名取は一つ一つの学校の規模が大きく体験活動が難しいが、季節の行事など体験活動をさせてもらえれば。閑上を含め多くの学校では5年生が田んぼ関係の学習をする。閑上では今年度しめ縄づくりをさせてもらう。体験をどうさせるか、先生方が一人で見ることができる人数は限られている。見守りだけでも本当に安心感がある。そこから、担任と地域の方が話せるようになるといい。

久米委員

餅つき体験は毎年している。那智小は児童数が減っているが、参加する児童数は変わらない。ここ数年コロナで一時中止している。その間、お父さん、お母さんが行事をしなくてもいいのではないかという雰囲気になっている。これは学校の役員も同じ。そう難しく考えず楽しいことをできればいいと思うがなかなかそうはいかない。地域学校協働活動についても地域の方がよく分かっていない。よい活動だが、もう少し役員になる方たちの集まり方もゆるくなればよい。

伊藤委員長

これからの活動について事務局より説明願いたい。

事務局（小池社会教育主事）

資料⑤をもとに「令和５年度の事業の流れ」を説明した。

伊藤委員長

もう一度２月に運営委員会があるが、その際には委員全員に参加いただき、多くの意見が聞ければと思う。

最後にこれだけは言っておかなければということは有るか。

紙谷委員

小学校は何年同じ学校にいても、その学年を受け持つのは一年限りという場合もある。その学校で、その学年で地域との関わる行事を経験するのは何年目の先生だったとしても一回目の方が多いので、先生方は不安に思う。先生方は外部にお願いするとしても自分自身で教材研究しなければいけないと思っている。責任感も強い。そういう思いを持っているというのをご理解いただき優しく見守っていただきたい。

伊藤委員長

その他ということで、佐々木委員より説明願いたい。

佐々木委員

別紙資料をもとに、地域コンソーシアムによる障害者の生涯学習支援体制構築事業に宮城県が手を挙げて採択されていることや、県の取組、地域学校協働活動との関連、その推進についての説明があった。

（議事一切を終了。）

4 閉会

14：42 終了

以上